



**SGH**

Warsaw School  
of Economics

**グローバル倫理フレームワーク作成  
へのアピール  
&  
倫理的自己評価のためのツールキット**



## グローバル倫理フレームワーク作成へのアピール

世界の持続可能な発展を保障するために、世界の在り方に対して我々が責任を負います。その責任の観点から見て重要な分野で原動力となり得る場を利用して、倫理的問題を取り上げる必要があります。

グローバル倫理の世界共通の理解の論議が続いていて、その結論もいまだでていないが、「人間の経済活動」としての倫理原則を今公表することは適切だと思います。

現在、経済とそれに関連する経営・財務・会計分野における倫理は、各分野における継続的な共通の注意事項を必要とします。

### 我々は:

- 社会と個人に有害となる非倫理的な行為を強く非難し、
- 多くの人を傷付け、経済とその周辺に損害を与え続ける非道徳的な姿勢に反対するため、

### 以下を望みます:

- 経済、経営、財務と会計などすべての業界にとって普遍的な倫理的必須事項を作り上げること。
- 全業界の上記事項への積極的な態度を促し、その重要な研究と実践を推進すること。

上記を意識した上で、自から始めましょう。

## 倫理的自己評価のためのツールキット

Ethics Self Assessment (ESA) という倫理的自己評価用ツールを紹介します。

### ESAは:

- アピールの内容を承諾した署名者たちの建設的な思考と行動の表明です。
- アピールのパートナーとなった組織の意思表示でもあります。
- 経済活動（経済、経営、財務と会計）に従事し、意識的に社会と共存する Homo・ソシオ = エコノミクス（社会経済人）の倫理的行動を記述する、グローバル倫理上重要な7つの価値観クラスターに別れています。
- より深い自己反省を促す設問を含んでいます。
- 回答者が自らの倫理心象を形成し、コメントできる方式です。
- 当ツールは利用する人だけにしか役立ちません。

どうぞESAを利用してください。経済活動の倫理と倫理的行動があなたにとって重要であることを証明してください。ぜひ参加してください。

アピールのパートナーと署名者

**SGH**

**SGH** Klub Partnerów

 **RZECZPOSPOLITA**

**ACCA** Think Ahead

 **CIMA**

**PIBR**  
Polska Izba Biegłych Rewidentów

 Stowarzyszenie Księgowych w Polsce

## 企画の概要とお礼

### グローバル倫理フレームワーク作成へのアピール&倫理的自己評価のためのツールキット

**(ESA) にする** 企画はワルシャワ経済大学SGH (Warsaw School Economics) で生まれた。その概念の考案者はアンナ・カルマンスカ教授 (ワルシャワ経済大学SGH経営財務学部会計学科長 兼 2018年4月に活動を開始したSGH倫理クラブの創設者) である。

企画は、ここで紹介する**グローバル倫理フレームワーク作成へのアピールと倫理的自己評価のためのツールキット (ESA)** の2部からなり、これは経済活動の倫理性を重要とする多くの方々の数カ月間にわたる議論の成果である。公益のために時間と努力を惜しまなかった皆様に心から感謝する。

この企画を支援してくれたワルシャワ経済大学SGH当局の方々、中でも特に：マレック・ロツキ教授 (ワルシャワ経済大学学長)、P:ヴァホヴィアック教授 (科学と経営担当の副学長)、リシャルド・バルトコヴィアック教授 (経営財務学部長) とマルチン・ドンブロフスキ (大学総務部長)、そしてパートナーの方々：フランチシェク・ヴァラ (ポーランド会計士協会)、エヴァ・ヤクプチュク=ツアウイ、ヘンリク・ドンブロフスキ (ポーランド会計検査官会議所PIBR)、ヤクブ・ヴォイナロフスキ (ACCA)、ヤクブ・ベイナロヴィッチ (CIMA)、ウカシ・マウエツキ=テピヒト、マグダレナ・インディク、ヴォイチェフ・ニエズゴジンスキ (ワルシャワ経済大学SGH) に心から感謝する。

また記者、事業者、ワルシャワ経済大学SGH教授と調査監査学科会計・管理大学院生の方々からも貴重なコメントをいただき、特別に感謝の意を表したい。



**グローバル倫理フレームワーク作成へのアピール&倫理的自己評価のためのツールキット (ESA)** は、2019年10月14日にワルシャワで開かれた、国際会計問題に関する第31回アジア太平洋会議の時に初めて紹介された。そのような機会を与えていただき、当会議の国際プログラム評議会、特にその会長の、フレズノ市（アメリカ合衆国）のカリフォルニア州立大学付属クレイグビジネススクールのアリ・ペイヴァンディ教授に感謝の意を表す。



**グローバル倫理フレームワーク作成へのアピール&倫理的自己評価のためのツールキット (ESA)** の作成意図は、経済大学SGH名誉博士ポール・デンビンスキ教授とアンドリュー・ヒルトン氏にも高く評価された。心から感謝する。

## グローバル倫理フレームワーク作成へのアピール&倫理的自己評価のためのツールキット (ESA) をめぐる議論について

この企画の実現までずいぶん時間がかかった。その基本的発想を知った多くの人は、その内容と重要性を長時間検討した。そんな中でその必要性を疑う者は一人もいなかった。逆に、規模は小さいが、非常に重要な企画であることを認めて、新しいアイデアやその改定内容を協議し、意見を共有してくれた方々が多かった。さらに、彼らは時間の許す限り、ワルシャワ経済大学SGHで3回にわたって行われたラウンドテーブルのブレインストーミングにも参加してくれた。その成果は下記の通りであった：



### ラウンドテーブル1 (2019/2/26)

- 文明と言う観点から見た世界、変化と倫理が帰属する地理的条件、宗教と文化の倫理的価値について - その詳述
- 財務、経営と会計における倫理的価値について - その類似点と相違点
- 倫理的価値の推薦リストに関するブレインストーミング



### ラウンドテーブル2 (2019/5/28)

- ビジネスにおける対話、信頼と共感について
- 組織での倫理性プログラム実施の経験について
- アンケート中の倫理の特徴と自己発見に役立つアンケートの作成能力について
- アンケート作成中のビジネス心理学者の役割について
- 提案された価値観クラスター概念、記述方法、その容量と伝えたいメッセージに関するブレインストーミング



### ラウンドテーブル3 (2019/9/13)

- 言葉の持つ力と公益のための活動について
- 内容伝達における責任について
- 自己評価の難しさと心的ハードルについて
- 匿名性と倫理的自己評価 (ESA) の実施方式について
- 自己改革のモニタリングに利用できるESAの役割について
- **グローバル倫理フレームワーク作成へのアピールと倫理的自己評価のためのツールキット (ESA) の結果確認形式に関するブレインストーミング**



# グローバル倫理フレームワーク作成へのアピール&倫理的自己評価のためのツールキット (ESA)

Copyright©2019, Anna Karmańska & SGH Ethics Club

全ての著作権を保有します。上記のアピールとツールキットはワルシャワ経済大学SGHがポーランド語、英語と日本語で掲載しています。従って、ワルシャワ経済大学SGH当局の許可なしの他の言語への翻訳や転載を禁じます。

但し：自らの倫理的価値を錬成したい方は、上記の許可を得ることなく、自由に倫理的自己評価 (ESA) を使用することをお勧めします。

著作権に関するお問い合わせ先:

Prof. dr hab. Anna Karmańska  
SGH Warsaw School of Economics  
Al. Niepodległości 128  
02-554 Warsaw, Poland

または

[anna.karmanska@sgh.waw.pl](mailto:anna.karmanska@sgh.waw.pl)

**SGH**



ENG



PL



